

むなかた日和

～2014年度 むなかた電子博物館新着情報に掲載された主な記事から～

2014年4月11日

自由の森遊歩道が完成

3月29日午前10時から、宗像市自由ヶ丘にある「自由の森遊歩道」で完成を祝う記念式典が行われました。これは自由の森遊歩道を守る会が主催し、地域住民や、宗像市長をはじめ多数来賓が参列しました。

市長による横断幕の除幕式の後、安全祈願が行われ、続いて記念植樹、その後、三々五々完成した遊歩道を歩きました。桜も満開の日でしたが、あいにくの小雨模様の中、歩き終えた参加者には手作りのぜんざいがふるまわれました。



自由ヶ丘11丁目登り口に近い11号公園の桜

自由の森遊歩道とは

自由ヶ丘地区コミュニティの創立10周年に合わせて、ボランティアを募り作られた手作りの遊歩道。最高標高は95メートル。

2010年に自由ヶ丘小学校側から自由ヶ丘11丁目側まで1.1キロメートルが開通。今年度は自由ヶ丘11丁目側から南口までの新道400メートルを整備した。これは、花王の「みんなの森づくり活動」に応募し採用されたもの。山登りの雰囲気も味わうことができる全長1.5キロメートルの山道は自然林を生かし、伐採をほとんど行わずに作られた。そのため貴重な植物や、野鳥が見られ森林浴が楽しめる。



自由の森遊歩道を守る会会長の挨拶

自由の森遊歩道を守る会

現在 50 名ほどの会員がいる。

会員自らが企画して、コースの整備、展望所の設置、小鳥の巣箱作り、樹木のネームプレートづくりなどを行い、夢のある場所を提供することを目指す。

利用者の安全に気を配っている。バンブー広場を作り竹小屋を設け、体験学習を行う。多くの方に利用していただくことで、世代間交流を行い、歓声の聞こえる空間づくりの場所となることを願っている。



宗像市長による除幕。花王株式会社と公益財団都市緑化機構から活動助成を受けている。



参加者による記念植樹。自然林をまもるためシイ、カシ、クヌギなど 5 種類の苗木を植えた。



式典が終わり、新コースを登って行く。

案内板

遊歩道を示す黄色の実線がこれまでの道 1.1 km、点線が今年度整備された 400m。全長 1.5m になる。



新コースは竹林の中を歩く。
落ちた竹の葉が積み重なって、
「足の裏が気持ちいい」「ジュ
ータンみたい」と歓声が聞こ
える。



旧コースとの合流付近では竹林が徐々に
樹林に代わっていく。



新コースと旧コースがつながる
自由ヶ丘 11 丁目側入り口での合流地点

11 丁目側出入り口の案内板
旧コース 11 丁目側から自由ヶ丘小学校
までをめざす。
歩行者にとってその日の体調がわかる急
な階段が 58 段ある。

530mで中間展望所に着く（中間地点）。
眼下に自由ヶ丘の住宅街が広がり許斐山
が見える。





記帳台。ノートが入っている。



腰かけてストレッチなどが
できる丸木のベンチ。



中間展望所からのながめ。自由ヶ丘市街が一望できる。

ここから 90mで第 2 展望所に付く。



第 2 展望所から正面に見える許斐山 (271m)

気をつけて歩くと、足元にもめずらしいものがある。



珪化木(けいかぼく)
(樹木が地中に埋没して化石となったもの)



石炭になったものもある。

これらの石炭は、宗像市西北部の丘陵地域に広く分布する今から1億年近く前の古第三紀の地層挟炭層に由来すると思われる。かつて池田周辺および赤間周辺では筑豊炭田と同じ時代の石炭が採掘されていた。(むなかた電子博物館「自然環境調査報告書より引用）



自然との調和を考え取り付けられた安全柵。



小鳥の巣箱



シダが遊歩道の両側に生えている。

休憩所の傍には7本に枝分かれしたヤマモモの木がある。
木肌は薄茶色をしている。





第一展望所 晴れた日の見晴らしはすばらしい。四塚連山がみえる
左から湯川山ゆがわやま（471メートル）孔
大寺山こだいしゃま（499m）金山かなやま
(317m) 城山じょうやま (369m)

自由ヶ丘小学校からの登り口には案内板や登山者ための杖、ベンチが整備されている。



樹木に覆われた遊歩道を歩きながら、
校内放送や小学生たちの歓声が聞こえてくる。



自由の森遊歩道は気軽に山登りが味わえる散歩コースです。自然林にかこまれて深呼吸をしたり、ストレッチをしたり、座って休憩できる場所もあります。樹木にはネームプレートが付けられ、いろいろな種類の木の名前と実物を観察することができます。

見晴らしもよいので、遠くまで見渡せる景色は四季を通してすばらしく、幼児から高齢者まで手軽に山歩きが味わえる憩いの場所です。